

日本共産党

中村すぐるは 実現をめざします

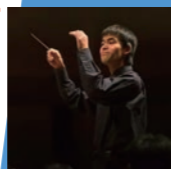


01 値上げラッシュから暮らしを守る

国に消費税5%減税、インボイス中止を求めるとともに、西東京市としても直接助成の拡充など独自支援策を強化します。

02 若者・学生を徹底的に応援します

学生応援特別給付金をさらに充実させるとともに奨学金返済への支援を。「ブラックな働き方の相談」を徹底的に強化します。



03 「子育てするなら西東京」に

小中学校の給食費の無償化、子ども医療費の完全無償化など、妊娠出産から大学生まで子育てしやすい西東京へ。

04 高齢者と障害者に安心の生活

都内各自治体で始まっている補聴器の購入助成制度を西東京市でも。特養老人ホーム増設、相談活動の充実強化を。

05 ジェンダー平等を西東京から

他自治体で進んでいる男女平等基本条例の制定を。差別や偏見をなくし、多様性を認めあうまちに。

06 憲法守れの声、今こそ

岸田政権がねらう軍事費2倍化はくらしも壊れます。憲法9条を守り、活かせる声を発信。



文化と平和は
一体です

HISTORY

1番センターの野球少年

勉強も趣味も「なんでも一生懸命」(兄・萌さん)。少年野球ではチームのムードメーカー的存在で、中学ではテニス部で部長を務め、リーダーシップを発揮していました。

高専で出会った吹奏楽

楽器演奏だけでなく、指揮者もしていた中村さん。「指揮者は自らのビジョンを持ちながらも、みんなの意見をよく聞くことが必要で、しっかり役割を果たしていました」(友人)。

はたらき方を改善したい

楽器の販売会社に勤務した中村さん。「悩み事があるといつでも話を聞いてくれた」(当時の同僚)という面倒見のよさを発揮する一方、長時間のサービス残業などの働く実態に、若者の働き方の改善を決意しました。



趣味の自転車。故郷長野まで240キロを1日で走破したことも。

共産党に入党。憲法を活かしたい

18歳で入党。憲法を守り、活かそうとする姿勢に共感しています。「憲法9条の精神で戦争させない外交を」「誰もが8時間働けば普通に生活でき、スポーツや文化に親しめるように」—中村さんは走り続けます。

PROFILE

●1987年長野県長野市生まれ。国立長野高専(電子制御工学科)卒●大手電機メーカー勤務後、尚美ミュージックカレッジ専門学校(ユーフォニアム専攻)で学び、都内楽器店で働く●2018年、西東京市議選に初当選●趣味:楽器演奏、自転車(ロードバイク)、フルマラソン(完走3回)

日本共産党

中村 すぐる

西東京市議会議員

現職最年少

35歳

命と平和は
ゆずれない。

西東京民報 2022年秋冬号外

発行/武藤朝子 西原町3-7-B325

日本共産党北多摩東部地区委員会は見解を發表しました。

ご意見・ご要望、ご相談をお寄せください。

☎042(465)3101 Fax042(465)4494



2022
12/25

市政の選択



西東京市議会議員

中村すぐる

35歳

参議院議員

山添拓



37歳

中村さんの質疑は、追及も提案も納得できる論戦

「声を届ける議員になりたい」思いがいつも胸に

僕らの確信「政治は変わるし、変えられる」

山添 中村さんの議会質疑の議事録を読みました。追及も提案も納得できる論戦で、特に学生支援（※詳細は右ページ）が実現したのはよかったですね。

中村 ありがとうございます。いつも国会で鋭い論戦をしている山添さんに評価していただけるのはうれしいです。若者・学生支援を公約に掲げたこと、その原点は、仲間が高学費で夢を断念せざるを得なかったことです。親御さんの辛さもいかにかと思えます。

山添 私も学生時代、自治会活動を通して年収4百万円以下の世帯での授業料無料化を実現しました。「声をあげれば変えられる」という確信は生き方の出発点でもあります。国会でも学費値下げを求めてきました。

中村 もう一つ、私の原点があります。社会人になってすぐにリーマンショックが起き、派遣切りが横行し、ネットカフェ難民も生まれて「自分も将来、そうなるのかな」と不安いっぱいになったんです。そんな時、私たちが集めた若者の実態を共産党の地元議員さんが議会

で取り上げて、改善を求めてくれたんです。ああ、声を届けてくれる政治家がいるんだと胸がいつぱいになりました。だから私もそうありたいといつも思っているんです。

山添 現場の声を聞き、議会に届けることは議員の大事な役割ですね。政治は市民のもの、身近なものだと実感できる機会にもなると思います。

中村 党派や信条に違いはあっても、事実を前にすると「これは問題だな」と感じると思うんです。若者・学生支援策は、私の議会質問が発端となりました。「コロナ特例の家賃補助を受けている方のうち3割が若者」という答弁を引き出し、他会派の議員さんも「若者への支援策が必要だ」という思いを共有してくれました。

山添 くらしに直結する地方政治の現場でこそ、憲法を活かしたいですね。

中村 山添さんの「憲法が希望」という言葉が大好きです。私は人生の中で音楽に打ち込んできました。音楽と文化は平和があつてこそ。また、まともな働き方や収入がないと演奏したり聴きに行くこともできません。憲法はそれをみんな保障しようとしていますから。

山添 宝の議席です。二期目も必ず。

市政を動かす！ 心に残る3つの論戦

01. 学生支援の実現

02. 国保料据え置き

03. 子どものタブレット無償修理

01

「学生と親を苦しめる高学費 手を差し伸べるべきです」

初質問から「学生や若者に支援を」と訴えました。中村市議がくり返しくり返し質問する中、野党議員11名共同の若者支援策の提案、さらには市議会全体としての要望に発展。ついに**コロナ禍で市独自の学生応援特別給付金(5万円。2021、22年度)に結びつきました**。多摩地域の26市でも西東京市だけの制度です。

02

「今でも高すぎる国保料 値上げしていいのですか？」

年収の1割近い高すぎる国民健康保険の保険料。西東京市の世帯のうち約3割が国保加入です。「コロナ禍のもとで値上げは許されない」と市民の陳情が議会に寄せられました。中村市議は引上げ中止と子どもの保険料の軽減を求めて論戦。**この2年間、国保料は引き上げられていません**。

03

「タブレット破損時の修理代 家庭に払わせるんですか？」

小中学生に一人一台配布されることとなったタブレット。ところが西東京市は、破損させた場合は最大5万8千円の負担が生まれる可能性があることを保護者へのお知らせに明記し、保護者から不安と疑問の声が寄せられました。中村市議は議会でも追及。**「通常使用による破損は弁償を求めない」との答弁を勝ち取りました**。

他にも、学校体育館へのエアコン設置、コロナ禍での市内業者への直接支援など、市民のみなさんと力をあわせ、実現してきました。



背景は、議会で質問に立つ中村すぐる市議